

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢や希望をかなえる学校」「安全で安心な学校」「地域に根ざし信頼され愛される学校」

- 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」「社会人基礎力」をはぐくむ。
- 安全で安心な学びの場で、思いやりと感謝の気持ちを大切に、人権尊重の教育を推進して、互いに認め合い尊重しあう「豊かな心」をはぐくむ。
- 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」をはぐくむ。

2 中期的目標

1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成

(1) 「わかる授業」の展開により、自信や達成感を持たせ「学ぶ楽しさ」を知ることで、学習に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかる。

- 生徒一人ひとりの実態を把握し、主体的な学びを実現するための授業力向上に取り組む。
- 1人1台端末導入を受け、オンライン授業やICTの活用等を通して、対話的な学びを実現するための授業実践に取り組む。
- 学んだことを活用し、自らの可能性を生かすことのできる深い学びを実現するための授業実践に取り組む。
- 新教育課程及び観点別学習状況の評価のスムーズな運用に努める。

(2) 多様な進路実現のための学力向上及び社会人基礎力、真面目に努力し続ける力の育成に取り組む。

- 3年間を見通したキャリア教育計画により、学びに向かう力を育成する。
- 個々の目標に応じた進路支援体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。進路未決定率(R2:5%、R3:5%、R4:5%)を令和7年度には3%とする。
- コース制(スポーツサイエンス、情報技術専門及び総合系)を本校の強みとして積極的に生かし、生徒の自己実現につなげる。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすい」(R2:51%、R3:57%、R4:84%)を令和7年度には、70%を維持する。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導が充実している」(R2:56%、R3:59%、R4:89%)を令和7年度には、70%を維持する。

2. 「豊かな心」の育成

(1) 教育相談体制をさらに充実させ、教育支援委員会を有機的に運営することによって、一人ひとりを大切にする教育をいっそう推進する。

- 学校生活支援カードやアセスメントシートを活用したきめ細かい生徒の実態把握により、情報を共有して迅速に対応できる支援体制を整える。

(2) あらゆる教育活動を通じて、人権尊重教育を推進する。

- 学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、いじめ対策委員会を有機的に運営することによって、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。
- 3年間を見通した人権教育計画により、思いやりや感謝、他者を認める人権尊重の精神及び自尊感情を育成する。
- 教職員の人権意識向上のため、教職員向け人権研修を実施する。

(3) 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成する教育を推進する。

- クラス開きプログラム等の人間関係構築プログラムの研究及び導入に取り組む。
- 学校生活において生徒が過ごしやすく、コミュニケーションが弾むよう、情操教育も兼ねた環境整備に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的回答(R2:51.9%、R3:54.4%、R4:83.3%)を令和7年度には、75%を維持する。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的回答(R2:59.9%、R3:62.8%、R4:90.2%)を令和7年度には、75%を維持する。

3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成

(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進する。

- 一人ひとりを大切にする丁寧で粘り強い生徒指導により、「なぜ」ルールを守ることが必要なのかを理解・納得させ、遅刻者数の減少とマナーの向上に取り組む。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが積極的・自主的に活動できる力を育成する。

- 3学年を見通したLHR・総合的な探究の時間の計画により、主体的に考える力を育成し、早い時期から自分の将来について考えさせる。
- 部活動の活性化と生徒会活動、生徒委員会活動を充実させ、主体的に活動できる力を育成する。

※年間遅刻総数(R2:2698件、R3:3434件、R4:3369件)を令和7年度には、2000件以下とする。

※部活動加入率(R2:37%、R3:32%、R4:34%)を令和7年度には、40%以上とする。

※生徒向け学校教育自己診断における特別活動関連の肯定的回答(R2:53.3%、R3:71.4%、R4:91.0%)を令和7年度には、75%以上を維持する。

4. 地域に根ざした学校づくり

(1) 大阪府の再編整備計画に基づき、機能統合する対象校へ、スムーズな継承・発展ができるように連携を図る。

- 学校Webページ等で本校の教育活動(コース制のセールスポイント等)の情報発信に努める。

(2) 家庭や地域との連携・協力体制の充実を図り、生徒の自立を支援する。

- 学校Webページの定期的更新を行い、学校の情報発信に努める。
- PTA活動内容の充実により、PTA行事や学校行事への保護者の参加を増やす。
- 地域の活動や地域に向けた取組みに参加することで生徒に自己有用感をもたせ、地域に貢献する意識を醸成する。

5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理

(1) 会議でのペーパーレス化を図ることで、準備にかかる時間の短縮に努める。

(2) スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、外部人材のより一層の有効活用に努める。

(3) 教職員の負担軽減のため、既存の業務や役割分担の見直しを継続するとともに、残業時間の可視化を図ることで縮減につなげる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒・保護者】</p> <p>○すべての質問項目において、肯定的意見が否定的意見を超える結果となった。</p> <p>○学校生活に対する「楽しさ」が昨年度に比べて大幅に上昇した。</p> <p>昨年度、すべての学校行事を不足なく満足に行うことができたことで、新たな行事の文化が出来上がった。その中で、学校の中核となる3年生が積極的に行事に参加したことで、学校全体として、学校生活に対して「楽しい」と思うことができた。次年度以降からは、1学年ずつ減少していくため、学校行事の在り方を再度見直し、生徒数が少ない中でも、高い肯定的意見を維持できるようにしていきたい。</p> <p>○日ごろの丁寧な指導の結果、生徒に理解のある指導を行うことができている。</p>	<p>第1回】(5/23)</p> <p>【協議】</p> <p>○スクールミッションについて ➡承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成時からほぼ変更なし ・スポーツサイエンス専門コースの取組みにおいて、近隣小学校に出席授業を計画中 <p>○各分掌、学年からの本年度重点目標について ➡すべて承認</p> <p><首席>: 選抜がなくなることにより、「学校説明会」等による広報活動終了。今後は「かわち野ブログ」等で、学校生活の発信を行っていく。例年同様、学内アンケートの実施に取り組む。</p> <p><教務部>: 観点別評価について、運用方法の共有とブラッシュアップ。デジタル採点について、試験的運用スタート。</p> <p><生徒指導部>: 「遅刻」削減。学校行事をコロナ前の形へ戻す。部活動活性化。教員一枚岩での生徒指導。生徒が納得</p>

従来より継続して行われてきている「厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導」は変わらない中でも、生徒の状況が年々変化しているが、それでも、指導に対しての納得があるのは、紛れもなく、日ごろ生徒に接している教員が、時間をかけて丁寧に生徒と対話をしてきた積み重ねであろう。指導に対して生徒に理解させることは容易ではないが、時間をかけながら丁寧に対話をし、少しずつでも納得感を持たせることで、安心して学校生活を送る環境づくりができていていると考える。

【教職員】

○生徒が、どの教職員でも相談することができる相談体制や、教職員のカウンセリングマインドが浸透してきたと共に、生徒の悩みを一人の教員が抱えることがないような体制も十分に機能している。

生徒との対話の中で、生徒が抱える悩みなどを早期段階で引き出して対応していく事例も今年度はあった。いじめに対する対応や、学校の相談体制も、教職員間で浸透してきたといえる。また、各部門同士の連携や、教職員間の情報共有も丁寧に伝えていたため、一人に負担をかせずにチームで対応にあたる体制も定着してきた。次年度以降も、“チーム「かわち野」”として、迅速かつ的確に問題事象や生徒対応を行っていく。

○授業における端末利用の機会が大幅に上昇したことにより、更に、生徒の授業への理解度が上昇した。

1年生や2年生の授業を中心に、生徒が端末を学習活動にて使用する機会が圧倒的に増加した。このことは、教職員が、ようやく授業にて端末をどう活用していくかの方向性が見えてきたことが大きな要因であろう。やはり、ICTを活用することにより、生徒の授業内容への理解度は向上するといえる。今年度、「授業でのICT活用」をテーマにした教員研修を実施したことも一つのきっかけとして、更に、授業での端末活用が浸透させていくことで、「確かな学力」の育成につなげていく。

○業務軽減や業務内容、業務環境を見直し、従事する時間を軽減させることで、勤務時間内の教職員同士の対話時間をできる限り確保することが急務。

教育課程や、成績のあり方については、観点別学習状況の評価が2年目となったことや、閉校するまでの残り年数を鑑みると、昨年度と比較して減少してしまうことは、多少はやむを得ないことであろうと思われる。本来は、どのような状況であっても、これらの事項には常に検証や検討を重ねていき、更新し続けることが重要であるが、上記にある通り、生徒に対する指導等がより丁寧に時間をかけるようになったことや、「働き方改革」の推進のあおりも受け、限られた勤務時間内では、十分に検討する時間を確保することが難しくなっているのではないかと考える。

教職員が抱える事務作業を中心に、ICTの活用を促進し、作業効率を向上させることや、職員室などの職場環境を改善させ、総合的に、各教職員の従事時間の削減を狙うことで、教育についての意見交換をする時間の確保に繋げていきたい。

する指導

<進路指導部>：進路未決定率4.5%→3%。学年進路が生徒を先読みした指導。学校斡旋就職100%継続。

ミスマッチ防止。就職講座において、丁寧な指導を継続し、就職に対する意識づけを行う。

<第1学年>：「当たり前前を当たり前」に「仲間づくり」が目標。文化祭では初めての「合唱」に取組む。

教育支援対象生徒が多いため、保護者用の学習支援クラウドサービスを作成して、提出物等の情報提供。

<第2学年>：1年次の転退学者が多かったため、本年度は、生徒主体の行事を計画し、遠学校定着を図る。

次年度、新しい形の「体育祭」を実施するために組織を立ち上げ検討していく。

<第3学年>：3学年そろった最後の学年として、リーダーとして活躍できる人材の育成。社会人として必要なスキルを身につける機会を模索する。体育祭において、団長等をプレゼンで決定していく。遅刻が大幅減。

○外部委員からの意見

A) デジタル採点について質問。首席より、テスト的にやっていくが、事前準備やスキニングが大変な作業と回答。

B) 「(新たに) やろう」を増やしすぎると継続できなくなることもあるので、目標をしっかりと定めてやっていく欲しい。ICTの活用においても、何が目的かをはっきりと定めるべき。

C) 新型コロナ感染症について、まだまだ気を抜くことができない。

D) 閉校までに「かわち野」から一人は採用したい。野球部が少ないのはさびしい。

E) 生徒たちは、体育祭を中心とした生活をしている。応援団の練習や衣装を何にするかを楽しんでいる。遅刻は幼い頃からの積み重ねなので、時間を守る大切さをこれからも伝えていく。

【第2回】(11/27)

【協議】

○授業見学について(3年体育・1年情報・2年数学・3年地理) 委員からの意見

A) 「教える」には、「teach」「coach」があるが、どのような生徒を育てるかという目標を立てつつ、どう導くのかどうスキルを磨くのが学校教育を充実させていく上で重要となる。

B) 体育で自由度の高いところから、情報では集中して静かに作業しているところ、数学でICTを活用してわかりやすく導いているところと、地理で興味関心を引いているところ・・・生徒が一生涯授業に取組んでいる姿を拝見できた。生徒に社会で生き抜く力を身につけるため、先生方の授業スキルが重要になってくる。

C) ラグビーは難しく見えて形になっていたのが、教員の頑張りが見えた。体育館での女子ソフトボールが漸漸であった。数学はICTを活用して、教室全体が集中して授業に入り込んでいた。地理は、ふわっとした雰囲気の中から生徒の意見を引き出していた。ICTの革新に流されそうになるが、自分の意見を発言できる生徒を育てて欲しい。

D) 生徒が元気で社会に出てもらってほしいと感じた。発言できることの重要性を大切にしたい。情報はフリック操作が多い中で、しっかりとタイピングを教えていたのが良かった。数学は非常にわかりやすかった。「議論する」授業は、生徒たちの成長につながる。

E) 体育楽しそうであった。情報は自分も受けてみたかった。社会は教科書だけにとらわれず、教師との対話で学ぶ「楽しい」授業は印象に残ると感じた。

【第3回】(2/5)

【協議】

○令和5年度学校運営協議会第1回・第2回議事録について

A)、D) から誤字・表現について教点指摘あり ➡ 承認

○「令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)」についての達成状況と「令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)」の計画及び重点目標について、校長が説明。学校教育自己診断については、首席から説明。➡承認

A)：生徒の心に残るHR活動素晴らしい。学校教育自己診断の数値がここまで高いのに驚いている。

ICTの活用と授業理解度との関係性はいいか？ ➡生徒の興味関心は高まっている

B)：教員が前を向いて尽力していることが伝わる。部活動の地域移行や教員の部活動に対する意識はいいか？

➡活発に活動している部活動がほとんどなく、部活動大阪モデルが成り立たない。教員の「地域に移行する」という熱量はなく、地域の外部チームに所属している生徒も恐らくいない。

C)：生徒、教員の減少は、教員一人あたりの負担は増加するだろう。その中でも、生徒の満足度が向上しているのは(もしくは維持)大変なことだと思う。

D)：日々の取組みの成果が数字に顕著にあらわれたと思う。総合的な探究の時間への教員の満足度の低さは、目標が高いことが起因しているのではないかと。生徒の満足度は高い。

「小規模校の悲劇」…一人が複数の役割で仕事を回していかないといけない。業務量は変わらないので、どう回していくかが課題。

E)：全体的に数値が向上しているのは、生徒や教員が「閉校」に意識が向いているのが起因しているのではないかと。

「議論する」授業は、生徒たちの成長につながる。

F)：楽しく学校に通っている息子の姿をみて満足であった。

A)：かわち野高校応援団としてのメッセージとして受け止めていただければと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成	<p>(1) 「わかる授業」の展開</p> <p>ア. 生徒の実態把握及び授業研究</p> <p>イ. 校内外の公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>ウ. 図書室やAL教室の有効活用</p> <p>エ. 1人1台端末の活用頻度の活性化</p> <p>オ. 新教育課程及び観点別学習状況の評価のスムーズな運用</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育産業による基礎学力調査等を活用し、生徒の実態把握及び基礎力育成重視の授業実践を進める。また、頑張った生徒を表彰して、生徒のモチベーションを向上させる。</p> <p>イ・教職経験年数の少ない教員の授業研究会を中心に、校内の授業公開・研究協議を進める。 ・授業研究のための研修、他校及び外部の公開授業等への参加を進める。</p> <p>ウ・図書室やAL教室の活用で、調べ学習なども取り入れる。</p> <p>エ・オンライン授業委員会を中心に環境整備を推進し、ガイドラインに基づき、オンライン授業についての研究・実践を行い、進捗状況を逐次確認する。</p> <p>オ・教育課程委員会が中心となり、現状確認や課題の把握、デジタル採点の導入に関する検討を必要に応じて行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断の項目4～7（教育課程・成績評価・学力向上・教育活動全般の評価と取組み）を75%以上維持。[86%]</p> <p>イ・校外授業研究会の実施 [授業公開を年間3回、校内授業研究会を年間3回]。 ・外部での勉強会、研修等への参加 [年間3回]</p> <p>ウ・各教科それぞれにおいて活用し、授業の工夫点を夏休みまでに共有できている。</p> <p>エ・オ ICT活用やオンライン授業及び観点別評価についての教職員研修を実施する。[各学期 3回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア. 76.2% 成績評価に関する肯定的意見は高かった。一方で、学力向上のための取り組みに関する項目は減少した。授業でのICT活用機会が大幅に増えていることから、学力向上のための検証は授業の中で行っている。(○)</p> <p>イ. 目標回数には届かなかったが、研修 (ICT活用がテーマ) 以後の教員同士の会話などから、参加した教員が得たものは多かったように思う。(△)</p> <p>ウ. 10年目教員が牽引し、ICTを活用しながらの授業改善とその共有ができた。(○)</p> <p>エ. 教員向けにアンケートを実施し、ICT導入状況を把握した。情報委員、教務部長を中心にICT活用事例報告や実践報告を実施し、教科ごとの指導方法、コンテンツ紹介を行った。(○)</p> <p>オ. デジタル採点システムを導入し、定期考査では複数の教員が運用した。観点別学習状況評価も2年目になり、円滑に情報共有することができた。(○)</p>
	<p>(2) 多様な進路実現のための取組み</p> <p>ア. キャリア教育計画の充実</p> <p>イ. 進学支援体制の構築</p> <p>ウ. コース制のさらなるブラッシュアップ</p>	<p>(2)</p> <p>ア・3年間のキャリア教育計画を全教職員で共有する。</p> <p>イ・3年間を見通した進学支援体制を構築する。</p> <p>ウ・再編整備校内PTにおいて、コース制のさらなるブラッシュアップについて検討を継続する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断の「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的回答を90%以上維持。[97.4%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の「充実した進路指導が行われている」の肯定的回答を70%以上維持。[88.8%]</p> <p>ウ・再編整備校内PTを月1回以上定例開催して、諸課題について検討する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・90.5% 今年度も昨年度に引き続き進路関係行事が予定通り実施できたこと、進路指導部と3学年の連携がしっかりとれていたことが、高評価の要因である。(○)</p> <p>イ・91.7% 3年はもちろん、1年では新たに体験授業の回数を増やしたことなどから昨年度を上回る評価が得られた。(◎)</p> <p>ウ・月1回のペースは維持できなかったが、諸課題検討については予定通り進行している。(△)</p>
2. 「豊かな心」の育成	<p>(1) 教育相談体制の充実・教育支援委員会の有機的運営</p> <p>ア. 支援体制の確立</p> <p>(2) 人権尊重教育の推進</p> <p>ア. 学校いじめ防止基本方針の徹底・いじめ対策委員会の有機的運営</p> <p>イ. 人権教育計画の充実</p> <p>ウ. 教職員の人権意識向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校における教育支援コーディネーターを中心とし、各学年の代表コーディネーターとの連携を密にした支援体制の拡充</p> <p>・教育支援委員会主催の職員研修の実施</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校いじめ防止基本方針に従い、安全で安心な居場所としての定着を図る。</p> <p>・いじめ対策委員会の定期開催・情報共有の徹底化</p> <p>イ・3年間の人権教育計画を全教職員で共有する。</p> <p>ウ・教職員人権研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答を75%以上維持。[83.3%]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答を90%。[89.7%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答を75%以上維持。[81.5%]</p> <p>・いじめ対策委員会を学期に1回以上</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答を70%以上維持。[79.5%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答を75%以上維持。[90.2%]</p> <p>ウ・ハラスメント研修を含み年3回</p>	<p>(1)</p> <p>ア・92.8% 学年主任を中心に、困り感のある生徒の情報共有が迅速に丁寧に行えるようになっていく。生徒への周知も積極的に行っている。(◎)</p> <p>・90.5% 教員向けの研修を2度実施。高水準を維持している。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・81.9% 生徒一人一人に対応した教員の取組みが生徒から評価されている。(◎)</p> <p>・いじめ対策委員会も速やかに対応できている。(○)</p> <p>イ・85.1% (教員) ・92.1% (生徒) 人権教育に重点を置いた研修等が功を奏した。(◎)</p> <p>ウ・3回実施 (○)</p>

	<p>(3) コミュニケーション能力を養成する教育 ア. クラス開きプログラム等の人間関係構築のプログラム研究及び導入</p> <p>イ. 生徒同士のコミュニケーションが弾む、校内環境整備</p>	<p>(3) ア・ソーシャルスキルトレーニングの取り組みを受けて、クラス開きやコミュニケーション力向上を目的としたホームルームでの取り組みを実践する。</p> <p>イ・2階渡り廊下の壁面に芸術作品を展示する棚の設置や、生徒が教員や生徒同士と自由に話ができるスペースを創出し、生徒の豊かな感性の育成の一助となす。</p>	<p>(3) ア・ホームルーム活動において、生徒が自主的に運営している。 生徒の司会によるホームルームの実施 [各学期3回]</p> <p>イ・2階渡り廊下に簡易な学習スペースの設置とともに、廊下の壁面部分に、芸術作品鑑賞棚を8月末までに設置。</p>	<p>(3) ア・(1年) 体育祭の出場種目や文化祭の出し物を決める際、生徒が中心となって活動することができた。3学期には、生徒企画による球技大会に向け、取り組んだ。(○) (2年) 1学期は遠足、2学期は修学旅行のレクリエーションの企画・準備・司会を行った。3学期は生徒が作る「イベント祭り」の企画・運営を実施した。(○) (3年) 自己実現に向けた目標を個々に設定し、担任と継続的に面談を行った。また、行事を好む学年の特性を考慮して、生徒同士のコミュニケーションを密に取らせるため、2学期にミニ運動会を実施した。1月に球技大会を帯りなく実施できた。(○)</p> <p>イ・4月には設置済み。生徒に好評である。(◎)</p>
<p>3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力」の育成</p>	<p>(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進 ア. 生徒指導に関する全教職員の共通理解・情報共有</p> <p>イ. 遅刻者の減少とマナーの向上</p> <p>ウ. 薬物乱用防止の取組み</p> <p>エ. 防災教育の取組み</p> <p>(2) 生徒自らが積極的・自主的に活動できる力の育成 ア. LHR・総合的な探究の時間の計画の充実</p> <p>イ. 部活動の活性化と生徒会活動の充実</p>	<p>(1) ア・生徒の実態把握に努め、全教職員での情報共有、指導に関しての共通理解を図る。校則やルールについて、生徒が理解・納得するまで丁寧に説明する。生徒指導内規の見直しを行い、学年相互で指導内容を統一する。</p> <p>イ・遅刻を繰り返す生徒への指導の徹底 ・教職員、PTA、生徒によるあいさつ運動を進める。</p> <p>ウ・薬物乱用防止について生徒に理解させる。</p> <p>エ・年2回の避難訓練の実施と、AED 講習の実施。</p> <p>(2) ア・3年間のLHR計画、総合的な探究の時間の計画を全教職員で共有し、検証する。首席がまとめ役となり、各学年間の調整・情報共有を行う。</p> <p>イ・新入生による部活動見学会、部活動体験を充実させる。</p> <p>・体育祭や文化祭などでは生徒の活動領域を増やし、生徒の自主活動を促進する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導は納得できる」を60%以上維持。[66.2%]</p> <p>イ・年間遅刻総数を2500件以内。[3369件] ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答を80%以上維持。[90.2%]</p> <p>ウ・薬物乱用防止講演会と保健の授業やHRとの連携</p> <p>エ・事後アンケートにおいて、「緊急時の避難対応について、理解できた」肯定値を80%以上維持。</p> <p>(2) ア・教職員向け学校教育自己診断の「特別活動、学校行事等が生徒の育成につながるよう工夫、運営されている」を80%以上維持。[89.8%] ・生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答を75%以上維持。[87.6%]</p> <p>イ・部活動加入率を40%。[34%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答を80%以上維持。[91%]</p>	<p>(1) ア・79.6% 学年相互で指導内容を統一できた成果(◎)</p> <p>イ・2972件 遅刻を繰り返す生徒への指導を徹底し、個別対応も実施したが改善が及んでいない。(△) ・94.3% 遅刻数過多の一方で規範意識の肯定的回答は高い。自己評価の規準を指導していく必要がある。(○)</p> <p>ウ・例年通り、しっかりと連携できた。(○)</p> <p>エ・事後アンケートは実施できなかったが、消防署と連携し、二度の避難訓練やAED講習を実施できた。(○)</p> <p>(2) ア・76.2% 教員の業務過多による準備不足が、不完全燃焼の感覚になったことが、数値が低下した理由と考えられる。(△) ・89.8% 生徒自身は主体的に取り組んだ成果として、満足感を持っていた。(◎)</p> <p>イ・25.8% (3年生引退前は31.1%) 1年生がサッカー部やバスケットボール部、ブレイクダンス部等に複数名で入部してくれた。しかし、それ以外の部活動では入部者0名もあり、活動に支障をきたしている。(△) ・93.2% 学校行事関連の肯定的回答は非常に高く、部活動とは切り離して考えられていることがうかがえる(◎)</p>
<p>4. 地域に根ざした学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の充実 ア. 学校 Web ページの活用</p> <p>イ. 地域の活動や地域に向けた取り組みの参加</p>	<p>(1) ア・学校 Web ページで日常的に生徒の活動を発信する。 ・授業公開週間等に、保護者による授業参観の機会を設定する。</p> <p>イ・地域の行事への本校生徒の参加を進める。</p> <p>・地域中学校との部活動での連携を進める。 ・地域連携事業としての香津中学オープンスクール、茶道の公開講座を継続する。</p>	<p>(1) ア・学校ブログは年間30回以上発信。 ・保護者による授業参観の機会の設定4回以上。</p> <p>イ・地域のイベント参加生徒数をコロナ前の30名程度に戻す。 [20名]</p> <p>・本校の体育施設を利用して、中学生との部活動交流を行う。 ・香津中学オープンスクール、茶道の公開講座の実施。</p>	<p>(1) ア・現地と情報教員が連携した修学旅行でのリアル配信は、保護者等にとっても好評だったが、学校ブログの更新が少し滞ってしまった。令和5年度の学校ブログの更新回数は、34回であった。授業参観の機会は3回である。(○)</p> <p>イ・地域のフェスティバル参加等で40名を超える生徒が参加している。</p> <p>・香津・香津東中学校の生徒と部活動交流ができた。(○)</p> <p>・最後の香中OSも実施できている。(○)</p>

5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理	<p>(1) 会議でのペーパーレス化へのシフト</p> <p>(2) 外部人材の有効活用</p> <p>(3) 在校等時間の適正な把握</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成人数が20人程度までの会議においては、タブレット端末を用いて、ペーパーレス会議を実践し、記録・保管といった作業工程の簡略化に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修講師等、専門家の支援導入により、長時間勤務による健康被害を回避するため、人材バンクの有効利用を進める。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間等を適正に把握し、月ごとに個人の勤務実態表と校内平均時間を併記したものを配付する。意識的に勤務時間と向き合うようにすることで、超過時間の削減に向けた取組みにつなげる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 17ある各種委員会において、会議回数の50%以上がペーパーレス会議を実施する委員会の数 [8委員会以上] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家の活用 [年間5名] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員による総務事務システムへの在校等時間の遅滞なき入力と、前年度同月比90% 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 8委員会がタブレット端末の活用とともに、他の委員会もペーパーレスを意識した会議になっている。(◎) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員・生徒ともに、研修は充実させることができた。大学院生を含め、10数名の外部講師を招聘した。(◎) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則、毎週水曜日の一斉定時退庁日の徹底を図るために、校内放送をするなど、前年度比92.3%である。(2月分まで)(○)
------------------------	---	---	---	---